

卒業式写真



インタビュー

永田先生に聞いてみた



Q. 助産師を目指したきっかけはなんですか？

A. 母性実習をして、沐浴をしているスタッフさんの姿を見て、この仕事をしたい！と思ったことがきっかけです。

Q. 先生が学生と話するときなど、話し方で気をつけていることはありますか？

A. こちらの意図が伝わるようにわかりやすい言葉を使おうと心がけています。

Q. 母性の実習はどうしたら乗り切れますか？

A. 興味関心を持って楽しみを見つけるといいと思います。自分の頭の中だけで考えると難しいことが多いと思うので、いろんなテキストや本をみるといいと思います。

Q. 先生はどこから大学にきていますか？

A. 熊本から来ています。熊本からは新幹線で、久留米駅からは自転車です。新幹線では、新聞記事や小説を読んだりしています。最近、東野圭吾のクスの番人を読みました。刑事ものの小説も好きです。

Q. 家族構成は？

A. 夫と子供2人で4人家族です。

Q. 先生のお産エピソードを教えてください。

A. 前期破水から陣痛・緊急の帝王切開での早産と予想外のことを経験しました。自分のお産を通して、普通に生まれることは当たり前ではないと改めて感じました。母子分離の寂しさも経験し、今までの自分のケアを振り返るきっかけとなりました。

Q. 休日は何をしていますか？

A. 子供と遊んでいます。最近、子供が成長したので本気のドッチボールができるようになりました。その他は普通にスーパーに買い物に行ったり家の掃除とかしています。

Q. 好きな曲を教えてください。

A. 好きな曲は、Mrs. Green Appleのケセラセラです。主題歌のドラマを観ていたことがきっかけで知りました。子供も大好きでよく歌っています。BTSも好きです。BTSも子どもがよく歌って踊っています。(笑)

Q. 次の先生を指名していただきたいです。

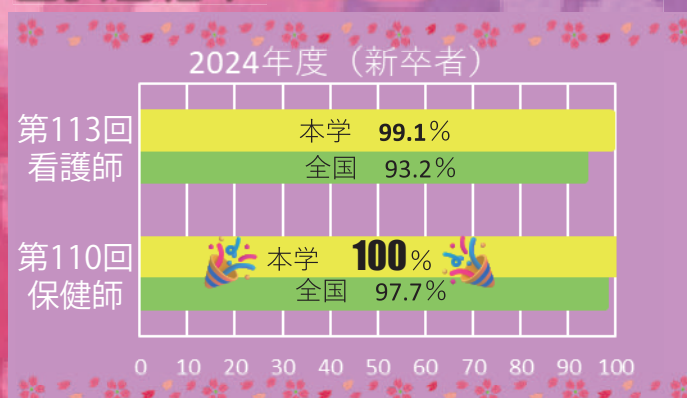
A. 次は、ぜひ小島先生にお願いしたいと思います。

編集後記

はなみずき第63号をお読み頂きありがとうございます。今回は委員の1.2年生が主体となって企画やレイアウト、編集作業などを行いました。制作の過程で何度も先輩方に助けられ、存在の大きさや頼もしさを感じるとともに多くのことを学ぶことができました。この経験を糧に今後も頑張っていきたいです。

最後に、学科通信の制作に携わっていただいた諸先生方や学生の皆様、本当にありがとうございました。次号以降も看護学科の魅力を発信していけるよう、委員一同精進してまいりますので、ご協力のほどよろしくお願い致します。

国試合格率



看護学科通信

はなみずき 第63号

久留米大学医学部看護学科



インド・ミソライ地方の民族画「スーリヤムツキーの木」

学科長あいさつ

看護学科長 益守かづき教授

自らの力を高めるために、今何ができるのか？

令和6年度の新入生の皆さま、ご入学おめでとうございます。皆さまを心より歓迎いたします。

皆さんの周りには、環境や人権問題、気候変動、超高齢化社会など多くの課題が山積しています。その中で生活している人が看護の対象です。生涯学習が求められている中、皆さんは大学4年間で看護の基礎を学修します。多くの仲間との切磋琢磨、地域の方々との交流は、皆さんの財産になります。大学に在籍しているからこそできることに、大いにチャレンジしてください。取り組んだことは、きっと皆さんの潜在力を開花させ、可能性を向上させることでしょう。



1年生担任あいさつ

1年生担任 古村美津代
担任補佐 山田泰子

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。看護学は、人を対象とした学問であり、看護職はあらゆる地域や人々の健康を支えていく重要な役割を担っています。皆さんが目指す看護職は、やりがいのある尊い仕事です。皆さんは、数多くの学問領域から看護学を学ぶ選択をされました。本学科で皆さんの夢の実現に向かって、深い知識と確かな技術を身につけてほしいと思います。皆さんが充実した有意義な学生生活を送られることを願っています。



看護学科サークル紹介

レピーフについて 2年生 H.H

レピーフというサークル名は、“Let's begin peer education concerning sexuality from now on!”の頭文字をとって名付けられました。「さあ、今から一緒に性について考えよう！」という意味です。レピーフは、年に1~2回、小学校や中学校、高校で同世代の学生たちと、性についての正しい知識や、命の大切さについて一緒に学び、考えていくピア・エデュケーション活動を行っています。「性」と聞くと、「恥ずかしい」や「難しい」といったイメージがあると思いますが、私たちはメンバー同士積極的に話し合い、活動することで、性というものを身近に感じ、明るく楽しく学んでいます。



戴帽式写真



看護学科の様子



西日本医科学学生総合体育大会を通して 3年 A.T

私は8月14日から4日間、京都府で開催された西日本医科学学生総合体育大会に、ハンドボール部マネージャーとして参加しました。初めての遠方での試合でしたが、マネージャー全員とプレイヤーの協力も得ながら、試合前の準備など様々な仕事を果たす事が出来ました。また、試合では劣勢の中、1点入るとチーム全員で喜び、部員全員がこの大会を通して、チーム一丸となって戦う事の楽しさを改めて実感しました。そして、マネージャーとして参加する大会は、この西日本医科学学生総合体育大会が最後でしたが、西医体全ての時間が最高の思い出です。



半年間の実習を通して 3年 Y.E

実習は、様々な施設や病棟における看護師の役割について考える機会となりました。また、対象者には入院前の暮らしから、病院での治療や施設での生活を経て、地域に戻るという一連の流れや1日の生活の流れがあります。そのため、自分が関わっている今の事だけを考えて看護するのではなく、自分が関わる時間は「対象者の長い人生・日々の生活の一部」という長期的な視点を持つ事が重要であると考えました。そして、それぞれの病院や施設で働く看護師が、各場所で専門性を発揮することが求められると感じました。



あのか祭について 2年 N.H

昨年が新型コロナウイルスの影響で、あのか祭を開催することができず、今年が企画等に参加でき運営側にたつ最初で最後のあのか祭でした。私は、部活動に入っていたので、その活動として部活動のみんなとお店を出させていただきました。初めてのことであったので、あのか祭がどのようなものなのかもよく分からない状態からのスタートだったので不安もあったけれど、みんなが一体となって取り組むことができました。当日は、お店も繁盛し色々な企画も見ることができて、学生生活の思い出の1つとして記憶に残るものとなりました。



酸素療法の演習を通して 2年 A.M

慢性期・回復期看護論で、呼吸機能改善のための援助技術を学びました。演習では、教員の指導のもと、中央配管を用いた酸素療法と酸素ポンプを用いた酸素療法の一連の流れを行いました。グループメンバーと手順や患者への適切な説明、鼻カニューレの装着などについて確認し、実施することが出来ました。さらに、留意点や疑問点について、グループメンバーと意見を出し合い、教員にも質問や確認を行うことで、より理解を深めることに繋がりました。今後も復習や練習をし、正しい知識と技術を身につけて実習など今後に活かしていきたいです。



半年を振り返って 1年 Y.H

半年を振り返ってみて、看護の基本について学ぶことが出来たと思います。からだの機能や構造について学んだり、看護師が行う患者に対するケアを実際に行ったりなど様々なことを学び、体験しました。そして看護を行うために多くのことを学ばなければならないと実感しました。これから学年が上がるにつれてより深く、専門的な内容を学んでいきます。これからの講義についていけるように、また看護実習で学んだことを生かせるように看護の基礎となる所をしっかり理解していきたいです。そして私が持つ理想の看護師像を忘れずに看護を理解していきたいです。



総合演習を通して 4年 N.S

今回の総合演習を通して、これから臨床で働いていくイメージを持ち、自分の技術への自信をつけることができました。身体侵襲を伴う採血や導尿など、実習では行えなかった技術を12月に演習を行うことで就職後の不安が少し減り、国家試験の知識の確認もできたと思います。また、退院支援については、臨床で働く看護師の助言をもとに患者さんを生活者としての視点を持って関わっていく大切さを改めて実感しました。4年間で学んだアセスメント技術や、自分の援助技術の成長も同時に感じる事ができました。今回学んだことを臨床で生かしていけるよう来年から頑張りたいと思います。



戴帽式について 1年 A.H

看護学科第30回生は、1月に戴帽式を迎えました。今年は新型コロナウイルスによる制限もなく4月ぶりに通常開催となりました。この日を迎える事が出来たのも、先生方や家族、仲間などの多くの人の支えがあったからです。ナースキャップを戴いた時に、看護の道を進む決意や心構えを新たにすることが出来ました。患者やご家族にとって最善の看護を提供するプロの看護職を目指し、これからも確かな知識や技術を身につけ、充実した学校生活を送ります。

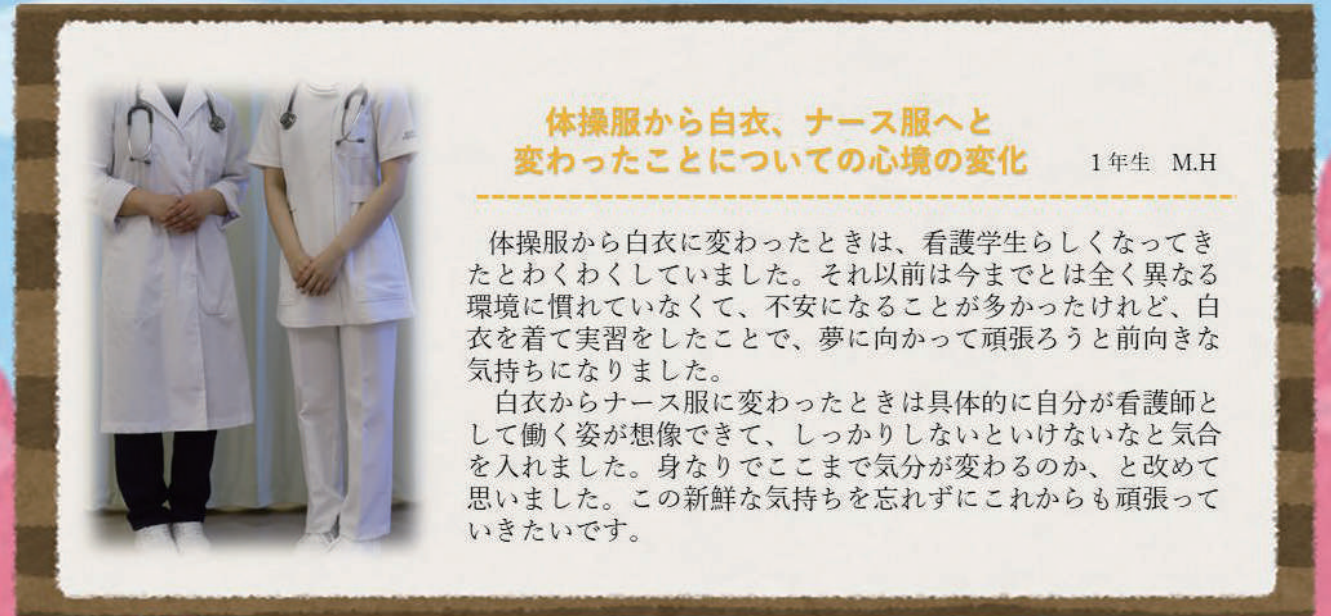


決起集会

グループに分かれてもらい、それぞれ国家試験前の高揚感、緊張や不安な気持ちなどを友達と共有し、学生はメッセージカードに意気込みを、先生方には応援メッセージを書いていただき、それをひとつに集結し4年生の決意表明として玄関前に掲示していただきました。学校に来るたびに奮起できたのではないかと思います。集会の最後には代表の先生方からお言葉をいただき最後の踏ん張りに力が入りました。事前に先生方に書いていただいたメッセージが不安や緊張を抱える学生にとって活力に変わっていただければ幸いです。提案した私としては思っています。先生方、事務の方、ご協力ありがとうございました。そして4年生のみなさん国家試験お疲れ様でした。



心境の変化



体操服から白衣、ナース服へと変わったことについての心境の変化

1年生 M.H

体操服から白衣に変わったときは、看護学生らしくなってきたとわくわくしていました。それ以前は今までとは全く異なる環境に慣れていなくて、不安になることが多かったけれど、白衣を着て実習をしたことで、夢に向かって頑張ろうと前向きな気持ちになりました。

白衣からナース服に変わったときは具体的に自分が看護師として働く姿が想像できて、しっかりしないといけないなと気合を入れました。身なりでここまで気分が変わるのか、と改めて思いました。この新鮮な気持ちを忘れずにこれからも頑張っていきたいです。

おすすめの本

「必修問題まんてんGET!」

この参考書には、必修問題を効果的に学ぶための解説とそれに沿った問題があります。もちろんこれをしただけでは必修が完璧になるとは一概には言えませんが、学校での講義や実習での学びをさらにこの参考書で深めるものと思って、使用していました。参考書を何冊も買うより優れた1冊を何度も、最後まで深掘りして理解することが大事だと思います。来年受験される方々の合格を祈っています。頑張ってください。

看護師国家試験対策研究会 著
メディカ出版

卒業生T.Mさんより



「マンガでわかる! 認知症の人が見ている世界」
認知症の方と一緒に生活しているような感覚で、とても読みやすいです。医学的視点や心理学的法則も載っていて勉強にもなります。なにより、対応のポイントが具体的に役に立ちます。あたたかい気持ちで楽しく看護できそう! と思えるのでおすすめです。

遠藤 英俊 監修 川畑 智 著
文響社

基礎看護学
加悦美恵先生より



学生スナップ

